

学 校 教 育 目 標	あかるく なかよく たくましく
目 指 す 学 校 像	○児童が生き生きと活動し、笑顔と活気があふれる学校 ○児童一人ひとりを大切にし規律ある学校 ○教師が誇りと使命感をもって働く学校 ○教育環境が整い、安心安全で、きれいな学校 ○保護者や地域から信頼されともに歩む学校
重 点 目 標	1 確かな学力の定着を図る教育活動の推進 2 コミュニティ・スクールを核とした保護者や地域に信頼される学校づくりの推進及びリフレッシュ工事下における適正な教育活動の実現 3 メール等による迅速な情報発信と校務の電子化 4 教員の指導力の向上とアクティブ・ラーニング型授業の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を上回っており良好な結果である。 また、主体的に学習に取り組む態度に関する質問についても、肯定的な回答をした割合が全体的に高い。 (課題) ○発言の声が小さかったり、自信なさそうに発表したりする姿が見られる。自ら学習に取り組むという点では、個人差が見られる。	・「個別最適な学び」の推進	①GIGA スクール構想にかかわり、タブレットを活用した授業の改善を行う。 ②スタディ・サブリを学校及び家庭において活用を図る。	①児童が毎日授業でタブレットを活用できた実感できたか。 ②学校及び家庭において、スタディ・サブリを活用した学習に取り組めたか。					
		・教科横断型の「探究的な学び」の実	①STEAMS 教育について、年間指導計画に学びのポイントを位置付ける。 ②全国学習状況調査の結果を分析し、分析結果を基に授業改善に生かす。	①「STEAMS TIME」のカリキュラムに学びのポイントを位置付けられたか。 ②全国学調の児童の振り返りを基に1学期中に分析し、分析結果を基にした授業改善を2学期以降に行えたか。					
2	(現状) ○児童は全体的に穏やかで落ちついている。どの学年も誰とでも関わることができる。 ○昨年度は年間を通してあいさつの指導を行ったので、進んであいさつできる児童が増えた。 ○校庭が狭いため、業間か昼休みの一方でしか外遊びをすることができない。 (課題) ○高学年になるにつれて、「心と生活のアンケート」等に心の不安定さが現れる児童が増える。	・児童の生き生きとした教育活動を支援するための迅速かつ組織的な対応	①児童にかかわる問題への対応は「チーム学年」として学年主任を中心に「事実の確認→該当児童への指導→該当保護者への進捗状況の報告」をその日のうちに行う。 ②生徒指導・教育相談にかかわる協議会(定例会)を月に1回開催する。定例会では、1つを生徒指導に、もう1つを教育相談にして、内容の差別化を図り、協議内容の充実を図る。	①問題を覚知した際、その日のうちに対応できたか。 ②生徒指導・教育相談にかかわる諸課題について、それぞれの内容の協議が深まり、専門家や関係機関と連携して対応できたか。					
3	(現状) ○本校では紙媒体から電子媒体への移行が概ねできており、保護者へも浸透している。 ○本校では、PTAも地域も学校の教育活動に協力的なので、元々コミュニティ・スクールと同等の取組ができている。 (課題) ○電子媒体の活用が、学校と家庭との双方向の連絡ツールとして、さらなるデジタル化が求められている。 ○学校運営協議会での熟議は活発に行えているので、熟議で話し合われたことについての具体的に取り組むよう心掛ける必要がある。	・学校におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進	①本校から発出される文書については、原則としてHPに掲載し、掲載時にはメールに掲載先のリンクを貼り周知する。 ②児童の欠席と低学年の下校予定調査については、Web に欠席連絡フォームで対応する。 ③教材費等の集金は、年4回の振込とし、振込時期を実態に沿って変更する。	①紙媒体の配付を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡や低学年の下校予定調査について、円滑に管理できたか。 ③教材費等の集金の振込時期を、実態に沿って変更できたか。					
		・CSによる学校・家庭・地域の連携強化	①コミュニティ・スクールで取り組んでいる「自己肯定感を高める」ことについて、具体的な方策を決め実行する。	学校運営協議会の熟議でテーマにかかわる具体的な方策を決め、具体的な方策を実行できたか。					
4	(現状) ○4年間にわたる工事で、校庭が半分以下になるなど、適正な教育環境を確保するのが難しい状況にある。保護者や地域の方にも本校の状況を理解していただく必要がある。 ○本校では紙媒体から電子媒体への移行が概ねできており、保護者へも浸透している。 ○本校では、PTAも地域も学校の教育活動に協力的なので、元々コミュニティ・スクールと同等の取組ができている。 (課題) ○電子媒体の活用が、学校と家庭との双方向の連絡ツールとして、さらなるデジタル化が求められている。	・リフレッシュ改修工事に対応した適正な教育活動の実現	①担当課や工事業者と毎週打合せや相談を行い、当事者意識をもって改修にかかわる。 ②改修工事にかかわる諸課題に対する保護者や地域の方の要望に対して、関係機関に相談し、迅速に対応する。	①関係者との打合せ内容を教職員に周知し、大きな事故無く教育活動を行えたか。 ②保護者や地域の方からの要望について、関係機関と連携し適切に対応できたか。					
		・学校におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進	①本校から発出される文書は、原則としてHPに掲載し、掲載時にはメールに掲載先のリンクを貼り周知する。 ②児童の欠席と低学年の下校予定調査については、Web に欠席連絡フォームで対応する。 ③教材費等の集金は、年4回の振込とし振込時期を実態に沿って変更する。	①紙媒体の配付を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡や低学年の下校予定調査について、円滑に管理できたか。 ③教材費等の集金の振込時期を、実態に沿って変更できたか。					
5	(現状) ○若い教職員が多く、タブレット等のICT機器の操作の習得が比較的早い。 (課題) ○タブレット等は教育の道具なので、とすると道具を使うことが目的になりがちである。従来から大切にされている「児童が課題を意識して学習する」ための指導法について、研鑽を積む必要がある。	・児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする授業を全員が行えるよう、毎日校長が校内巡視を行い、必要に応じ指導を行う。 ②振り返りの時間を5分以上確保する授業を全員が行えるよう、全体会や研究推進委員会でのねらいを伝達するとともに、よい実践については具体的によい点を示し全体で共有する。	①問題解決型学習において、本時の目標にかかわるまとめと振り返りをする板書ができたか。 ②授業において振り返りの時間を5分以上確保し、その振り返りを全体で共有し、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりしたか。					